厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
総括研究報告書（平成 30 年度）

バイオマーカーと創薬に関するプロジェクト　総括

研究分担者　金井隆典　慶應義塾大学医学部消化器内科　教授

研究要旨：AMED/厚生労働省科学研究　個別研究班の中で、炎症性腸疾患に関する研究について、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究（鈴木班）と連携し、成果の共有を行うことにより相補相互的な研究開発の推進を行うことを本プロジェクトの目的としている。平成 30 年度は 8 つの研究班の進捗状況が発表された。

共同研究者
長沼誠、筋野智久、吉松祐介（慶應義塾大学）、岡本隆一、渡辺守（東京医科歯科大学）、芦塚伸也、北村和雄（宮崎大学）、藤谷幹浩（旭川医科大学）研究科消化器内科学）、桂田武彦（北海道大学）、鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

A．研究目的

AMED/厚生労働省科学研究　個別研究班の中で、炎症性腸疾患に関する研究について、
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究（鈴木班）と連携し、成果の共有を行うことにより相補相互的な研究開発の推進を行うことを本プロジェクトの目的とする。

B．研究方法

各研究班の進捗状況や成果について年２回の班会議において報告をする。各研究において、患者ルクルートが必要な場合は、班長の承認を得て、班会議分担研究者、協力者に依頼を行う。

（倫理面への配慮）

各研究については各施設の IRB や倫理委員会において承認が得られている。

C．研究結果

平成 30 年度は以下の 9 研究班より、進捗状況・成果が報告された。

「潰瘍性大腸炎患者に対する青黛治療の有害事象実態調査」班
「青黛に合併する肺高血圧症の病態探索研究」班
「培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する粘膜再生治療の開発」班
「アドレノメデュリン（AM）の炎症性腸疾患治療薬としての研究開発」班
「乳酸菌由来分子を用いた新規炎症性腸疾患治療薬の開発」班
「新たな炎症性腸疾患活動性マーカーとしての LRG の実用化について」班
「UC を合併した PSC の病態に寄与する腸内細菌叢の探索」班
「新規クローン病バイオマーカーACP353 の成人及び小児腸疾患での測定：多施設共同研究」班
「潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法の治療効果予測因子としての温感の意義とそのメカニズムとしての皮膚血流量の解析」班

D．考察

研究班により進捗状況が異なるため、成果の状況により適切な時期に班会議で報告することが好ましいと考えられた。また今後、多施設共同で試験・治験を行う際や成果を診断・治療指針への反映させる場合に班会議のサポートが必要であ

ると考えられる。今後も新規薬剤、新規バイオマーカーの同定などの報告を定期的に班会議参加者と共有することで今後の治験を行うに際しても連携を行うことが可能と考えられた。

E．結論

平成30年度はAMED/厚生労働省科学研究個別研究班の中で、9つの炎症性腸疾患に関する研究について、鈴木班にて報告された。次年度以降も密に連携をとり、相補相互的な研究開発の推進を行う予定である。

F．健康危険情報

各個研究の報告書を参照

G．研究発表

1.論文発表

別紙参照

2.学会発表

別紙参照

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし